

	12月	1月～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月～10月	
基本管理	●秋耕 ●土づくり 土改剤施用 ・『とれ太郎』 10aあたり60kg～80kg ・『元気田みやぎ』 10aあたり60kg	●耕起	●播種 4月20日頃 ●基肥散布	●田植え 5月15日頃 ●代掻き	●中干し	←→ 減数分裂期 ←→ 幼穂形成期	←→ 出穂 ←→ 登熟	←→ 成熟	●収穫 ●落水 9月5日頃
	※(注)環境保全米取組み圃場は、				畦畔に除草剤散布は出来ません！				

農薬使用基準

● 立枯病(農薬成分①)
イネミズ・ドロオイ(農薬)
いもち病防除箱処理

● 除草剤(農薬成分③)
コメット1キロ粒剤
フロアブル・顆粒

● カメムシ防除(農薬成分①)
スタークル液剤・粒剤

● 稲こうじ病防除 (農薬成分カウントなし)
出穂10日前まで散布可 Zボルドー粉剤 3kg/10a

● 紋枯病防除 (農薬成分カウントなし)
出穂期10日前頃～出穂期直前まで散布 バリダシン粉剤DL 3kg/10a

成分②

移植当日～3日前
育苗箱処理を実施する
使用量
『1箱あたり50g』施用厳守

除草剤散布
田植え後5日～ノビエ2.5葉期
◎粒剤・顆粒
田植同時散布が可能です！
◎フロアブル・ジャンボ
田植同時散布は出来ません！

種粒温湯消毒

種粒は『温湯消毒処理』したものが配布されます

タチガレン液剤

500倍液に希釈
1箱あたり500cc

Dr.オリゼフェルテラ粒剤

● 品種毎の基準施肥例(10aあたり)

品 種	窒素成分
ひとめぼれ	4.5～5.0kg
ササニシキ	4.0～4.5kg
コシヒカリ	4.0～4.5kg
まなむすめ	5.5～6.0kg
つや姫	4.5～5.0kg

栽培のポイント	基肥・追肥肥料の使用基準					田植期以降の管理				
	●環境保全米については、有機質入り肥料を使用します。 ●化学肥料窒素成分量3.5kg以下とする。 施肥例(全窒素成分量 5kg/10a)					1. 田植え時期 初期生育を確保するために 天気の良い日に行いましょう。				
	Aタイプ (80日)	基肥 (一発肥料)	肥料名 みやぎ米有機一発218 (旧 環境保全米名人)	保証成分 12-11-8	現物量 42kg	化学窒素 施肥量 2.52kg	2. 水管理 田植え後数日は植痛みを少なく するためやや深水(4～6cm)、 その後は2～3cmの深水に努める。			
	Bタイプ (90日)	基肥 (一発肥料)	肥料名 みやぎ米有機一発499 (旧 らくだ君有機一発499)	保証成分 14-9-9	現物量 36kg	化学窒素 施肥量 2.91kg	3. 除草剤散布時の漏水防止			
	Cタイプ (80日)	基肥 (一発肥料)	肥料名 有機一発088	保証成分 10-8-8	現物量 50kg	化学窒素 施肥量 2.45kg	4. 残苗処分 葉いもちの発生源は残苗からの 感染が原因になることが多いので 早期に処分する。			
Dタイプ (50日)	基肥	肥料名 ニューフレーバー ペースト	保証成分 8-4-6	現物量 63kg	化学窒素 施肥量 2.52kg					
	追肥	提携米追肥040	必要に応じて現物量で19kgまで追肥可							

農薬の使用基準(厳守)				環境保全米とは
対象病害虫・雑草	農薬名	成分数	備考	●国の農産物ガイドラインに基づき、慣行より農薬 ・化学肥料を50%以上減らして、栽培する環境を 大切にしたい米づくりです。 (ガイドラインの慣行基準では、農薬成分数17成分 化学窒素施肥量7kgとなります。) ●対象銘柄(うるち米) ひとめぼれ・ササニシキ・コシヒカリ・まなむすめ・ つや姫等のうるち米全品種です。 ●対象等級 1等米及び2等米です。
ばか苗・細菌病防除	温湯消毒	0		
立枯病(ムレ苗)防除	タチガレン液剤	1	播種時又は 発芽後	
イネミズ・ドロオイ・ イネツムシ防除・ いもち病防除	Dr.オリゼフェルテラ粒剤	2	移植3日前～ 移植当日	
雑草防除	コメット1キロ粒剤・ 顆粒(水口施用可)	3	移植直後～ ノビエ2.5葉期	
	コメットジャンボ・ フロアブル		田植え後5日～ ノビエ2.5葉期	
カメムシ類防除	スタークル液剤10・粒剤 (航空防除・地上防除)	1	収穫7日前まで	
成分合計		7		

※環境保全米は、上記以外の農薬は使用できません。